

# ①熱傷(犬)

- ・イタリアングレーハウンド、9才、去勢オス、5kg
- ・事故により左右腹部に熱傷を負った。(転院症例)

右側熱傷(写真の左が尾側、右が頭側)



熱傷受傷1日後 皮膚の変性と発赤



3日後 皮膚の壊死



9日後 皮膚の脱落

# ①熱傷(犬)

右側熱傷(写真の左が尾側、右が頭側)



11日後 皮膚の脱落が顕著



13日後



16日後 当院に初めて受診



16日後 当院でPRP・閉鎖療法・他家ADSC iv投与



23日後(当院治療7日後) 当院受診、創の縮小



37日後 肉芽の血行が悪化



# ①熱傷(犬)

右側熱傷(写真の左が尾側、右が頭側)



57日後 創の縮小が進まない



80日後 創の縮小停止



133日後 手術、デブライド、肉芽除去、新鮮創作成、皮膚の広範囲剥離、PRP、ウォーキングスーチャーを実施



151日後(手術から18日後) 抜糸



151日後



# ①熱傷(犬)

左側熱傷(写真の左が頭側、右が尾側)



熱傷受傷1日後



3日後 創周囲の皮膚発赤



5日後



9日後 皮膚の壊死が顕著



12日後 皮膚の脱落が顕著



大腿部にも皮膚の変性が顕著



# ①熱傷(犬)

左側熱傷(写真の左が頭側、右が尾側)



13日後 皮膚の広範囲脱落



14日後 皮膚の脱落がさらに拡大



16日後 当院受診 脱落しそうな壊死物質除去



16日後 当院で、洗浄、デブライド、PRP、閉鎖療法、他家ADSC iv



23日後(当院治療7日後)当院受診、創の急速な縮小



37日後、大腿部の創が治癒



# ①熱傷(犬)

左側熱傷(写真の左が頭側、右が尾側)



49日後



57日後 創の縮小がゆっくりと認められた



70日後 創の縮小が停止



111日後 創が拡大したように思える



肉芽の血行が良くない



133日後 手術、デブライド、肉芽除去、新鮮創作成、皮膚の広範囲剥離、PRP、ウォーキングスーチャーを実施

# ①熱傷(犬)

左側熱傷(写真の左が頭側、右が尾側)



145日後(手術12日後)



151日後(手術18日後) 抜糸



## 獣医師コメント

広範囲の熱傷のため、PRP・閉鎖療法・幹細胞療法を実施した。途中で創の縮小が停止したため、形成外科治療を追加した。熱傷では、単なる皮膚欠損とは異なり、周囲から創への血行が乏しいため、創の縮小が停止することがある。外科手術を実施する可能性を、できるだけ早い時点での御家族への説明に加えておくべきであろう。



## ②左後肢外傷(猫)

症例: 推定7歳(2009年)、去勢雄、4.6kg

診断: 左後肢外傷

PRP治療目的: 皮膚欠損に対する一般療法でも完治しない症例管理

2016年7月23日初診時

2016年7月19日から脱走し22日帰宅時に左後肢外傷。剃毛、消毒、包帯、抗生剤投与





## ②左後肢外傷(猫)

2016年7月25日:壊死組織脱落、アキレス腱露出



アイプクリーム、グラニュゲル、ハイドロサイトなどを使用し、2回/週で包帯交換消毒を繰り返す。  
肉芽の増殖や出血は認められるが、どうしても一部の皮膚(足根部などの可動域)の被覆がされず完治しない。

2016年8月/9月に上記治療を5回繰り返すが、一部アキレス腱なども露出したままで完治しないためPRP療法をオーナーにインフォームし、同意を得た。

## ②左後肢外傷(猫)

2016年10月7日 PRP投与前



PRP作製



- ・洗淨、デブライド処置
- ・大きく皮膚が欠損した2箇所PRPを塗布
- ・PRPの上から hidro site、包帯にて固定



## ②左後肢外傷(猫)

2016年10月14日 PRP移植後1週間

- ・オゾンシャワー、アイプクリーム塗布、包帯交換
- ・肉芽の増生を認め、改善傾向
- ・一部良好に回復していた箇所に穴が空いていたので多少不安あり。



## ②左後肢外傷(猫)

2016年10月23日 PRP移植後2週間

- ・ほぼ完治。
- ・被毛の発育が顕著であった。





### ③角膜上皮障害(犬)

シーザー10歳



【治療前】結膜の充血 鼻側角膜上皮障害と血管進入



【治療後】9日間 BID点眼すると上記病変が消散した

角膜上皮障害に対して点眼液として適用すると、ヒアルロン酸点眼と比較して抗炎症作用・上皮修復作用が著しく優れていることが臨床スコア上、評価される。

<考察>

スペインの眼科医アリオ博士らグループはEYE-PRPと称して角膜上皮障害に対して点眼・ゲルシート他の適用によって治療効果を上げている(The treatment with E-PRP in different ocular surface disorders)。自家血清点眼と言われていた点眼治療法はPRPのサイトカインによる効果であったかもしれない。

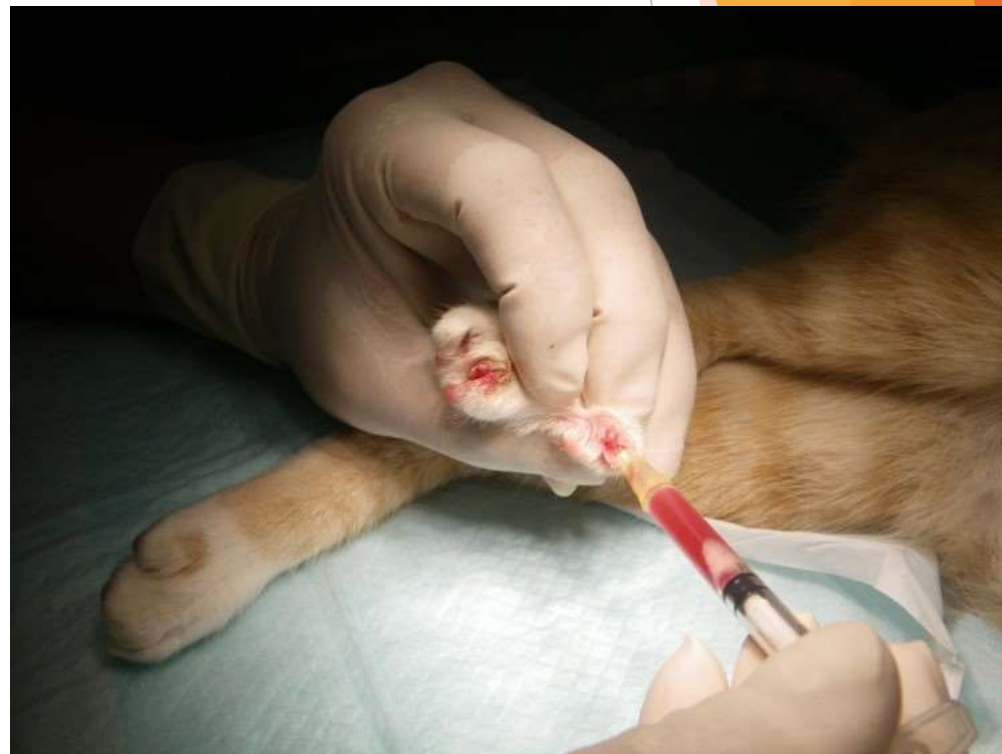
## ④慢性爪周囲炎 先天性爪鞘形成不全(猫)

ネコ2歳

先天的に爪鞘の形成不全により慢性炎症をきたし、常に疼痛を感じて慎重な歩様と怒りっぽい精神状態になっていた症例が、約半年間抗炎症剤と抗生物質による従来療法を継続していたが効果なく、PRP1回注入で改善した。



【治療前】18本全部に爪鞘の形成不全と爪周囲炎が起きていた



【治療中】PRPを作成して爪周囲に注入



## ④慢性爪周囲炎 先天性爪鞘形成不全(猫)



爪鞘は形成不全のままであるが、炎症症状が消散し再発もない。怒りっぽい性格は改善して穏やかな性格に変化している。

<考 察>

ヒトの巻き爪のような外観と痛みの程度かと想像された症例であったが、PRPに含まれるサイトカインによる抗炎症効果と組織修復作用によって改善したものであろう。